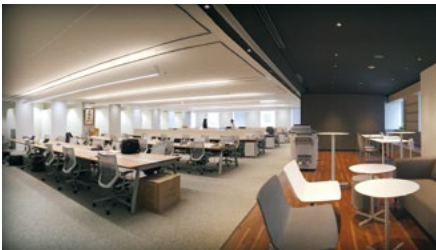


東京支店、一部子会社本社が新事務所に移転しました

当社東京支店および子会社の大智化学産業㈱、山田製薬㈱の本社が、4月に新事務所（東京都中央区日本橋2-1-14 日本橋加藤ビルディング 3F・4F）に移転しました。東京駅から徒歩5分、東京メトロ日本橋駅出口すぐという大変便利な場所となったことで、社内外から多くの人々が集まり、多様なコミュニケーションスペースを設けたことも相まって、活発なコミュニケーションに繋がっています。また、本社敷地内に来秋竣工予定の新研究施設・ニッカイノベーションセンターの橋渡しの機能も担っており、当社の重要な拠点としての役割がますます高まっています。



新支店のビル外観



フロアの様子

国立大学法人福井大学との包括的連携協定を締結

8月23日（火）、当社は国立大学法人福井大学と包括的連携に関する協定を改めて締結いたしました。同大学とは2005年に包括的連携に関する協定を締結しており、これまでも技術開発や人材育成、共同研究やインターンシップ等多岐にわたり共同で取り組んでまいりましたが、近年のオープンイノベーション推進やグローバル人材育成といった長期的課題については、持続的かつ一層緊密な連携が必要と判断し、内容の見直しを行った上で今回改めて包括的連携協定の締結に至りました。また、協定締結と並行し、「日華化学ジョイント・ラボ」（以下ジョイントラボ）を福井大学内に設置し、運営を始めました。ジョイントラボは、上述の長期的課題等について、福井大学と共同でソリューションの探索を行い、実現に向けたロードマップ作り等から一体となって進めていくため、まずは大学教員と企業技術者が専門性の枠を超えてフラットに話ができる場を構築したものです。当社にある化学以外の、物理学や機械学など、福井大学に所属されている多分野の専門家の知見を活用することで、化学品の開発に広く生かせるアイデアや技術を研究できると期待しています。今後このジョイント・ラボの活動を発展させ、地域なればこそできる「信頼感のある持続的な産学連携」の実践に挑戦してまいります。



調印式：右は福井大学 真弓学長 左は当社江守社長

2016年熊本地震で被災された方々への支援について

熊本地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。当社は、熊本地震により被災された方々に役立てていただくため、当社グループで300万円、当社グループ従業員から217万3千円の義援金を寄付いたしました。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

会社概要（2016年6月30日現在）

商号 日華化学株式会社
本社所在地 福井県福井市文京4丁目23-1
創立 1941年9月15日
資本金 2,898,545,000円
従業員数 1,444名（連結） 581名（個別）

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日／中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部（電話照会先）電話 0120-782-031（フリーダイヤル）
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

- 本社・総合研究所・デミ毛髪科学研究所・化粧品製造所／〒910-8670 福井市文京4丁目23-1 TEL (0776) 24-0213（代）
- 支店／大阪・東京・名古屋・北陸 ●営業所／福岡・仙台 ●工場／福井（デミ）・鯖江・関東・鹿島
- 鯖江物流センター ●デミヘアサイエンススクエア東京・大阪・名古屋
- 〔国内関係会社〕 山田製薬株式会社 コスメラボ株式会社 イーラル株式会社 大智化学産業株式会社 江守エンジニアリング株式会社
- 〔海外関係会社〕 日華化学研発（上海）有限公司 DEMI（BEIJING）INTERNATIONAL TRADING CO.,LTD. 香港日華化学有限公司 DEMI KOREA CO.,LTD. ニッカ U.S.A., INC. ニッカ KOREA CO., LTD. PT.インドネシアニッカケミカルズ 浙江日華化学有限公司 台湾日華化学工業股份有限公司 STC ニッカ CO., LTD. 広州日華化学有限公司 ニッカ VIETNAM CO., LTD.
- 発行／日華化学株式会社 ●発行月／2016年9月 通算31号

日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE

グローブ

第103期第2四半期 営業のご報告 2016年1月1日～2016年6月30日



様々な課題が見つかった上半期。改めて成長へのアクセルを踏む。

- 事業概況のご報告
- 日華チャレンジ2016
- 事業部の「いま」 繊維事業部
- マルチナショナルカンパニーへの道 デミコリア
- NICCAの「イノベーション・スイッチ」フェムトリアクター
- 財務の状況
- トピックス

75th
Anniversary

これからも、ずっと、輝く未来。
Activate Your Life

日華化学株式会社



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2016年12月期（第103期）第2四半期決算について、ここにご報告申し上げます。
当第2四半期は、急激な円高等が大きく影響し、減収減益となりました。引き続き厳しい経営環境が続くものと予想されますが、グループ一丸となって、事業環境の変化に適切に対応しながら、経営目標の達成に向けまい進していく所存です。
株主の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 江守康昌

※売上高・営業利益・経常利益はすべて連結の数字です。また％表示は前年同期比です。

2016年12月期（第103期）第2四半期決算概況

売上高 209億6千6百万円 4.7%減

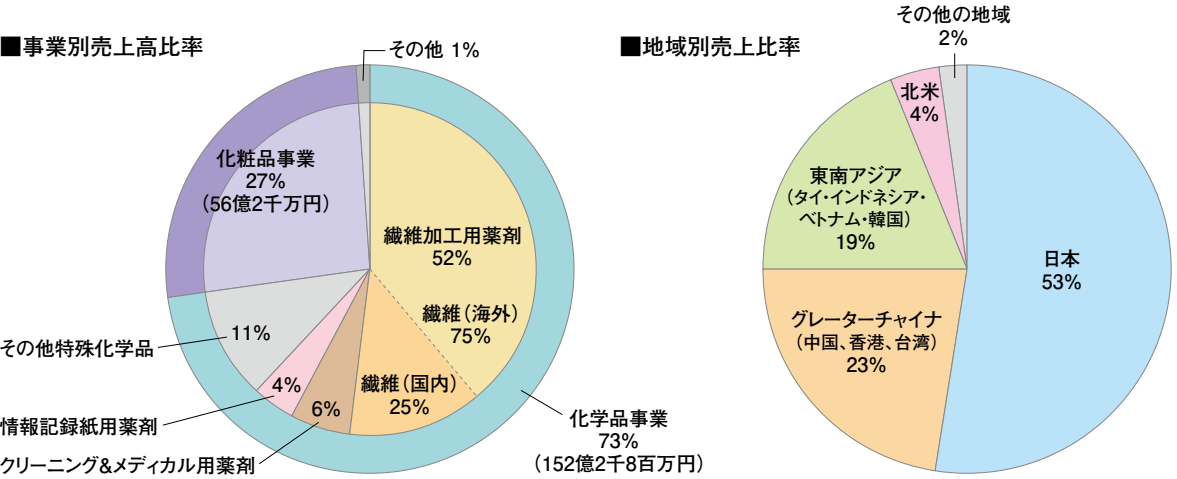
- 円高、韓国受託加工終了に伴う売上高減少
- 化粧品子会社好調

営業利益 8億8千2百万円 40.7%減

- 売上高減少により減益
- 東京支店移転に伴う経費増加
- グループ統一業務基幹システム稼動に伴う経費増加

経常利益 8億3千1百万円 49.1%減

- 円高による利益減少



※％については小数点以下を四捨五入しています

化学品事業

繊維加工用薬剤
繊維加工の一連の工程（製織・製編から精練・漂白・染色・捺染・仕上まで）を網羅する多様な薬剤

クリーニング&メディカル用薬剤
クリーニング店向けの薬剤、医療用器具の洗浄剤等

情報記録紙用薬剤
インクジェットプリント用薬剤や、ラベル、チケット、タグ、レジスター紙等の高性能感熱紙に使用される顔色剤、増感剤

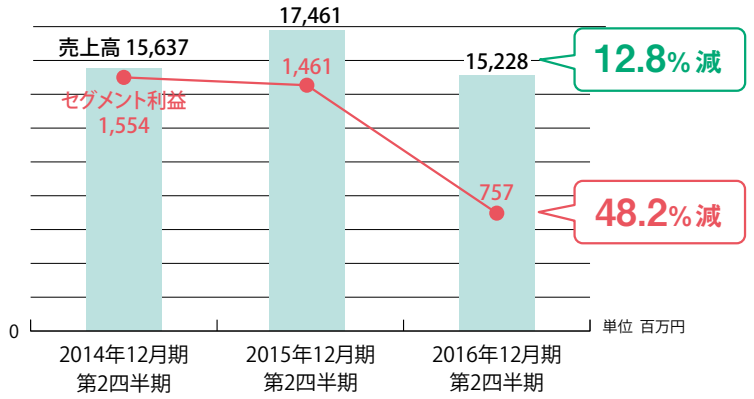
その他特殊化学品
合成ゴムやプラスチック素材、電子材料加工時に使用される界面活性剤

※売上高・営業利益・経常利益はすべて連結の数字です。また％表示は前年同期比です。

売上高 152億2千8百万円 12.8%減
セグメント利益 7億5千7百万円 48.2%減

- 大智化学産業の子会社化
- インドネシア、浙江、ベトナム伸長
- 韓国での繊維用フッ素加工剤受託終了
- 台湾、広州売上減

国内では、大智化学産業の子会社化が業績に寄与しました。海外ではインドネシア、浙江、ベトナムの子会社が伸長しましたが、韓国子会社での委託生産終了、台湾及び広州子会社において販売が低迷したことに加え、年初よりの円高及びアジア通貨安の影響と、繊維加工用薬剤の製品開発や販路拡大の遅れ等により減収減益となりました。



化粧品事業

美容室向け髪用化粧品
「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

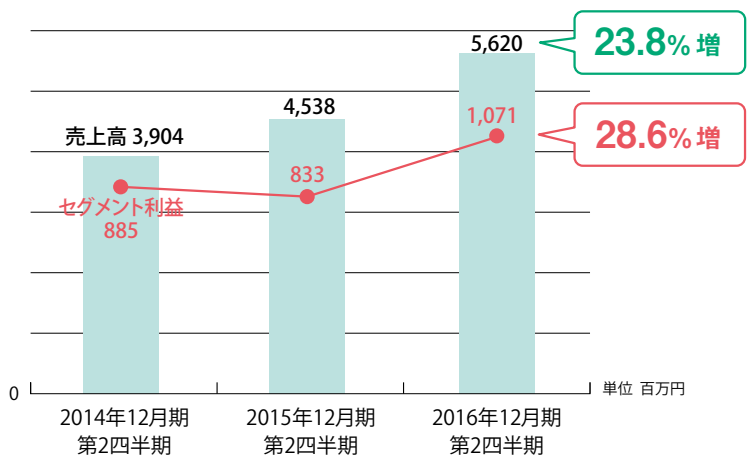
ODM・OEM
髪用化粧品の相手先ブランド受託生産

一般通販
フェイシャル基礎化粧品ブランド「アンサージュ」のインターネットによる通信販売

売上高 56億2千万円 23.8%増
セグメント利益 10億7千1百万円 28.6%増

- イーラル、デミコリアが好調に推移
- 山田製薬製造受託好調

イーラルの販売が堅調に推移したことに加え、山田製薬における化粧品製造受託や、デミコリアにおける販売が大幅に伸張したことにより、増収増益となりました。





2016年12月期上半期業績

様々な課題が見つかった上半期。 改めて成長へのアクセルを踏む。

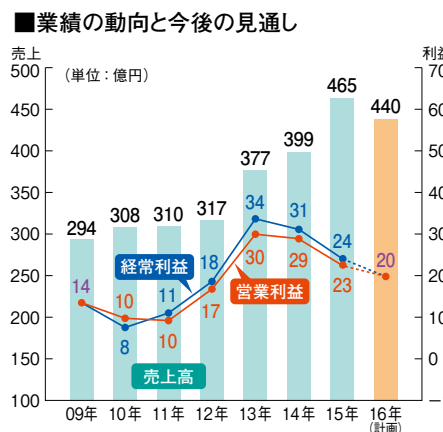
2016年12月期上半期（1月～6月）の連結業績は、売上高209億6千6百万円（前年同期比4.7%減）、営業利益8億8千2百万円（同40.7%減）、経常利益8億3千1百万円（同49.1%減）となりました。

この結果をどう受け止めるのか。また今後、下半期（7月～12月）および来期以降に向けて経営をどのようにかじ取りしていくのか。代表取締役社長・江守康昌が語ります。

代表取締役社長
江守 康昌（えもり やすまさ）

厳しい状況となった上半期

日華化学創立75周年となる今年は、「2016ビジョン」※1で定めた業績目標である売上高500億円／営業利益30億円の達成に向けて全社を挙げて取り組んできました。しかし、上半期が終わった今、前年同期と比べ減収減益の結果となり、本年12月末時点での上記数値目標は売上高・営業利益ともに達成できない見通しとなりました。これにより、通期業績予想を売上高440億円／営業利益20億円に下方修正することとなりました。



私どもは、「社業の永続的な成長と発展こそが皆様のご期待に応えること」との観点から、上記数値目標の達成はゴールではなくあくまでもひとつの通過点であると考えております。今期目標の下方修正は残念ながらありますが、中長期的なスパンでの当社社業は変わることなく伸長しており、また

市場もアジアを中心に今後も持続的な成長が見込めることから、これからの当社の経営方針がなんら変わることがないことを、あらかじめ申し上げておきたいと思います。

さて、当社は化学品事業と化粧品事業を主たる事業としており、以下、それぞれの業績およびその要因についてご説明いたします。

アジアが不調だった化学品事業

売上高は152億2千8百万円（前年同期比12.8%減）、セグメント利益は7億5千7百万円（同48.2%減）という減収減益の結果となりました。

国内では熊本地震の影響や自動車関連顧客における稼働低下があったものの、スポーツアウトドア衣料の繊維加工用薬剤や業務用クリーニング薬剤の販売が好調に推移、前年同期と比べ10%の増収となりました。しかし、化学品事業売上の半分近くを占める、アジアを中心とする海外での事業は、減収減益という結果になりました。

その理由として、年初より急激に進行した円高とアジア通貨安、韓国でのフッ素製品の受託加工終了による売上減少とそれに代わる販路拡大の遅れなどが挙げられます。

これらの中でも、2016年1月時点で対米ドル120円台だった為替レートが6月には101円にまでなった急激な円高の影響は大きく、これによって当社の売上高は上半期累計で10億8千5百万円目減りする結果

となり、利益もまた減少することとなりました。

また、海外での業績は子会社によって大きく異なる結果となりました。先述した韓国でのフッ素製品受託加工終了の影響を受け、台湾、韓国、広州の各子会社では販売が低迷しました。その反面、インドネシア、浙江、ベトナムの各子会社では、成長を続ける繊維加工産業の需要を取り込むことで、業績を伸ばしています。中国やASEAN各国は今、繊維生産の世界的な拠点となっており、統合・合併によって超巨大な繊維加工会社が誕生しています（詳細についてはP5をご覧ください）。これら巨大企業（ビッグアカウント※2）との取引を獲得していくことは、化学品事業にとって重要な課題となっており、当社では数年前からこれら企業へのアプローチを続けてきました。巨大企業との取引は大規模なものになる可能性が高いのですが、取引開始までの製品の試験や調整、取引条件の取り決めなどに時間がかかることも事実で、長期的なアプローチが必要となります。今回のインドネシア、浙江、ベトナムの各子会社の業績伸長は、このようなビッグアカウント攻略が徐々に実を結び始めていることを示しており、今後は他の子会社へも波及していくものと考えています。

化粧品事業は子会社が躍進

化粧品事業は、売上高は56億2千万

用語解説	
※1 2016ビジョン 当社が2009年に策定した中期経営計画。2016年に売上高500億円、営業利益30億円（2016年2月下方修正）を目指し、抜本的な企業体質の改善に挑んだ結果、売上高は294億円（2009年度）から465億円（2015年度）と大幅に伸びました。 ※2 ビッグアカウント 当社がターゲットとしている超大手繊維加工製造業。世界的に有名なファッション／スポーツアパレル企業から繊維加工を一手に受注し世界市場に供給しています。	※3 デミコリア 当社の韓国の100%子会社。韓国的美容室市場でデミコスメティクス商品を販売しています。詳細はP7をご覧ください。 ※4 山田製薬 明治43（1910）年創業。平成7（1995）年に当社が買収した100%子会社。医薬品、化粧品、健康食品、水関係品、雑貨品等の製造販売を手がけており、化粧品事業の第二工場としての役割も担っています。 ※5 ODM Original Design Manufacturingの略で、相手先のブランドで当社が製品設計から製造まで担当すること。取引先からは成功に導いてくれるODMパートナーとして高い評価をいただいています。
	※6 イーラル 2010年に設立した当社の100%子会社で、ブランドネームも兼ねています。「毛髪科学」の成果を「エイジングケア」商品と施術としてパッケージ化。美容室の新たな付加価値メニューとして提案するビジネスを展開しています。 ※7 店販品 店頭販売商品の意味で、シャンプー、トリートメント、スタイリング剤などの美容室専売品のこと。髪のプロである美容師は、お客様の髪質やスタイルケアに合わせて、美容技術に連動した商品を使用しています。同じケアがご家庭でもできるよう、それらの商品をお客様に販売しています。 ※8 ニッカイノベーションセンター 全国、世界から人と知識が集まり、新たなビジネスモデル、新規事業を生み出す「場」となることを目指す、新たな研究施設。2017年秋、本社敷地内に竣工予定です。

円（前年同期比23.8%増）、セグメント利益は10億7千1百万円（同28.6%増）と、大幅な増収増益となりました。中でもデミコリア※3の売上、および山田製薬※4の化粧品ODM※5ビジネスの伸長が大きく寄与しました。

2012年に設立したデミコリアは、商品の品質の良さが韓国美容師さんに支持されただけでなく、日本と同様にノミネートサロン戦略の実践によって業績を上げてきました。この戦略は、販売したい美容室を代理店ではなく当社が能動的に選定して、営業活動を直接的に行うというものです。当然、繁盛店や成長性の高い美容室をターゲットとするため、売上増に繋がるだけでなく、最新美容室情報を入手することができ、それがまた営業活動にも役立っ好循環に結びついています。また、美容師さんをフォローする役割を担うインストラクター人員の比率が高く、かつ他社に比べてスキルが多様でレベルも高いという点も大きな要因です。このような美容室への様々な活動は、日本におけるデミの情報をタイムリーに入手できるからこそ、その質の高さを維持できていると言えるでしょう。今後も順調な成長が期待でき、韓国における確固たる美容室専売品メーカーとしてのポジションを、さらに強めていくと見込んでいます。

山田製薬のODMビジネスの伸長につきましては、昨年度下半期に大きな売上をもたらした大型案件が、この上半期も引き続き受注納品できている点が大きな要因で

す。今後も引き続き、ODM・OEMの案件数増を強化してまいります。

さらには、イーラル※6の売上も順調に伸長しており、美容室専売品におけるヘッドスパブランドとして着実にファンを増やしています。

ただ、主力事業である美容室専売品のデミコスメティクスを中心に課題もまだまだ残っています。下半期や来期に向けて今やるべきことを再確認し、着実な成長の礎を継続して築いてまいります。

下半期における取り組み

上半期を振り返ることで、取り組むべき様々な課題とともに今後の展望も見えてきました。その前提として言えることは、当社の主力ターゲットのひとつである世界の繊維産業は右肩上がりの成長過程にあり、化粧品においてもまだまだ既存市場でシェア拡大の余地を残していることを踏まえ、当社としてはすでに策定している中長期的な戦略シナリオに沿った経営をさらに加速していく、ということです。従って研究開発や工場などの設備投資計画を変更する考えはありません。今回の減収減益の要因は、市場開拓および新製品投入がスケジュールどおりに進まなかったことにあり、その点を真摯に反省し下半期および来期以降の活動につなげていきたいと考えています。

具体的には下半期からは、化学品事業

においてはビッグアカウント攻略の成果が見込めまし、フッ素フリー撥水剤などの大型新製品の市場投入も予定しています。化粧品事業においては、デミコリア、山田製薬の好調持続を図るほか、年末需要期における店販品※7キャンペーンの成果が期待できます。



ニッカイノベーションセンター完成予想図

設備投資については、本年12月には化粧品事業の子会社である山田製薬の新工場が稼働を予定しており、来期以降のODM事業にとっての好材料となります。また来年には鹿島工場の第2期工事がスタートするとともに、ニッカイノベーションセンター※8の稼働開始を予定しており、生産力、研究開発力の一層の充実を図ります。加えて海外子会社での原材料調達から製品化、販売までのサプライチェーンを整備することで、為替の影響をより受けにくい経営体質への転換を進めます。

上半期の反省をもとに、改めてアクセルを踏むことで持続的な成長を果たし、皆様のご期待に応えてまいります。



繊維事業部 ビジネス開発部長
池端 和彦

繊維生産に欠かせぬ 「工程薬剤」を供給

繊維事業は、当社本社所在地の北陸地方が世界的な繊維加工品の産地であったことを背景に、当社創業時からの歴史を持つ中核事業です。現在では北陸地方は合成繊維※1加工の盛んな地域となっており、当社でも天然繊維向けのみならず、数多くの特長ある合成繊維向け加工用薬剤を生み出してまいりました。

原糸を織り、または編み上げ、染色し、抗菌や撥水、難燃加工などを行う「繊維加工業」の工程では様々な薬剤が用いられており、当社はそれら「工程薬剤」の研究開発・生産・販売を行ってきました。

日本の繊維加工業は、1970年代以降になると海外に生産拠点を移し、それに追随し当社もアジア各国に事業拠点を設立し、世界市場へと進出していきました。

現在、当社の繊維事業は、海外において中国をはじめとする8つの国と地域に生産・研究・販売などの拠点を有し、世界の繊維加工産業と深く関わりながら事業を展開しています。

アジアで成長する 繊維産業に対応

繊維産業は、世界的に見ると大きな可能性を秘めた「成長産業」です。今日、繊維製品の需要は、新興国の人口増とGDP増に伴い成長しており、2020年以降も右肩上がりで推移していくことが予測されています（右上グラフ参照）。

その繊維生産の一大拠点が、世界の合成繊維生産の6割強を占める中国です（右下グラフ参照）。中国では今、繊維加工企

成長続ける「繊維」のグローバル市場。 「環境対応力」を切り札に、 繊維加工用薬剤の世界トップを目指す。

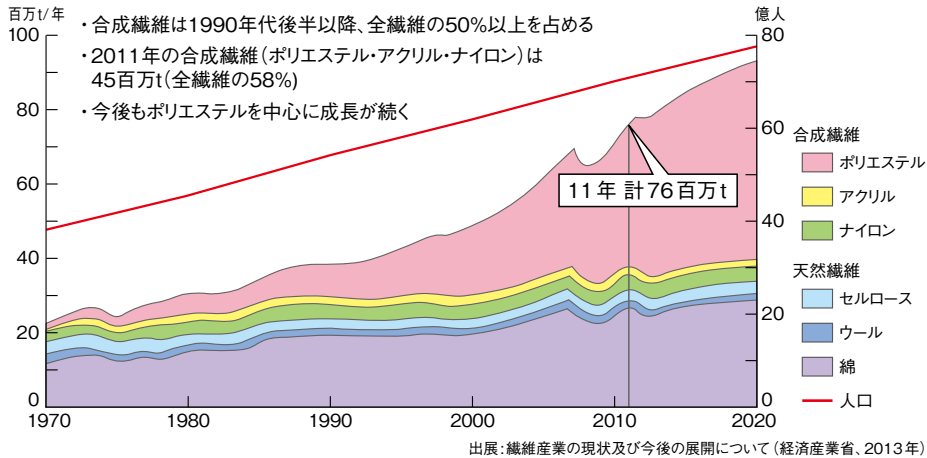
繊維事業は、日華化学連結売上約6割を占める主力事業です。また、グループの中で最もグローバル化の進んだ事業で、衣料品やカーシートといった「繊維製品」の加工工程で用いられる「薬剤」を開発生産し、世界の繊維加工メーカーに供給しています。日本でこそ「成熟産業」のイメージが強い繊維産業ですが、世界規模で見ると大きな可能性を秘めた「成長産業」です。ここに今、世界的な大手アパレルブランド発の、「環境対応」という大きなニーズが生まれています。それはどのようなニーズか?日華化学への影響は?繊維事業部ビジネス開発部長・池端和彦に聞きました。

業の統合・合併が進み、とてつもなく大規模な加工工場が次々と誕生しています。こうした、私たちが「ビッグアカウント」と呼ぶ巨大事業者が、欧米や日本などの世界的に有名なファッション／スポーツアパレル企業から繊維加工を一手に受注し世界市場に供給する、それが今日の繊維業界の姿です。

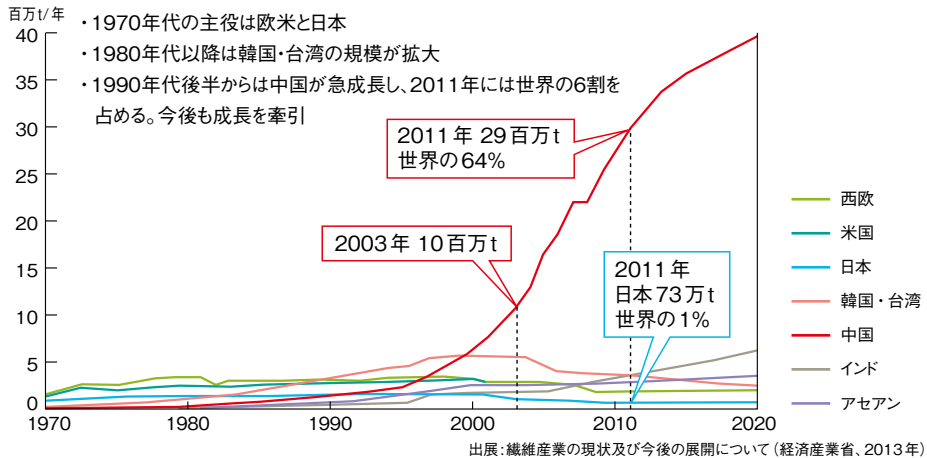
このような衣料向けの産業構造に対応するため、当社はすでに中国国内に研究所、工場を含む6つの事業拠点を置くほか、台

湾日華化学工業やニッカコリアをはじめとした海外子会社と連携しながら、中国繊維加工市場への積極的なアプローチを続け、巨大繊維加工企業との取引に成功してきました。こうした取り組みの結果、当社は世界有数の繊維加工用薬剤メーカーに成長を遂げました。また繊維事業では売上の約8割を海外市場で上げており、今後もこのグローバル展開をさらに加速することで、2020年には世界トップクラスの繊維加工薬剤メーカーを目指す計画を立てています。

■世界の主要繊維生産量



■主要国・地域の合成繊維生産量



用語解説

※1 合成繊維

木綿や絹などの天然繊維に対し、高分子化合物の糸から作られた繊維。ポリエステル、アクリル、ナイロンなど。丈夫で伸縮性があり、吸湿性、防水性などに優れていることから、スポーツ衣料やファッション衣料に多く用いられています。

※2 水系

塗料や接着剤、人工皮革などポリウレタンの製造時に用いられる材料に「ウレタン」があります。このウレタンは溶剤系、水系に大別されますが、溶剤は人体、環境への負荷が高いため、水系品が強く要望されています。

※3 bluesign

スイスに本部を置く独立した第三者機関、繊維製品の製造過程における繊維製品環境及び人への安全性を認証しており、現在では最も厳格かつ信頼性のある認証とされています。「システムパートナー」は、厳格な基準に基づいて検査され、合格したものにだけ与えられます。

※4 ISPO

International Trade Show for Sports Equipment and Fashionの略で、世界最大級のスポーツ及びアウトドア用品・衣料品展示会。2016年ドイツ(ミュンヘン)で開催された同展示会には、2,500社超が出展、120カ国以上から約8万人が来場。当社は2015年より出展し、環境対応技術をPRしています。

各工程に 製品を供給できる強み

世界市場で戦うための当社の強みは「糸から生地にするための繊維加工工程全般に製品(薬剤)だけでなく技術サポートをグローバルに提供することができる」ところにあります。

繊維は「糊抜き」「精練」「染色」などの工程を経て、撥水や抗菌、消臭や難燃といった様々な機能が加わります。これら一連の工程で使用される薬剤をオールラウンドに製品化し、さらにそれらを工場の加工ニーズに合わせてカスタマイズし提供しているのです。これによって当社は、品質に厳しい日本の繊維加工用薬剤業界においてトップ企業へと登りつめました。そしてこの強みを生かしながら、世界の繊維生産の中心地・中国でもその存在感を示しています。

■繊維加工工程

精練・漂白

糸・生地を洗う
(ゴミ・油を洗い流す)
⇒染まりにくさ防止



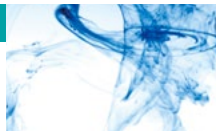
染色

糸・生地を染める
(均等に染める)
⇒色ムラ防止



ソービング・フィックス(固着)

余分な染料を洗い流す
染料を落ちにくくする
⇒洗濯による色落ち防止



機能加工

機能性を付与する

撥水・撥油、難燃、帯電防止
抗菌、消臭、柔軟仕上げ



繊維業界を揺るがす 大きな衝撃

こうした繊維——特にファッション／スポーツアパレル向け繊維業界に今、大きな衝撃が広がっています。それは世界的大手のファッション／スポーツアパレルブランドがこぞって「環境基準に合致しない繊維はもう使わない」との方針を打ち出したからです。

その発端は、国際的な環境団体によって2011年に始められた化学物質による水汚染をなくしていく「デトックス(解毒)・キャンペーン」でした。その環境団体は、ある大手ブランドと取引のある中国の繊維加工工場の排水から環境への残留性や生物濃縮性のある重金属や、環境ホルモンなどの化学物質が検出されたことを明らかにし、それら「懸念化学物質使用ゼロ」を訴える運動を展開したのです。その声を受けたファッション／スポーツアパレル大手各社は次々と賛同の意を表し、やがて多数のファッション／スポーツアパレルブランドにてZDHC (Zero Discharge of Hazardous Chemicals有害化学物質排出ゼロ)グループが設立され、「2020年までにサプライチェーン全体で該当物質の排出をゼロにする」ことを目標に掲げ、様々な取り組みをスタートさせることとなりました。これは「原料や加工工程において『懸念化学物質』を使った繊維を大手ファッション／スポーツアパレルブランドは採用しない」ことを意味しています。彼らが懸念化学物質としてリストアップしたフッ素系化合物や揮発性有機溶剤などは、実際はどの国でも認可されており問題はないのですが、繊維加工にも使われているため、繊維加工用薬剤メーカーが受けた衝撃はとても大きなものでした。しかし、当社はこの衝撃を追い風と捉え、

さらなる成長のためのチャンスに変えていくとしています。

「環境対応力」を 武器に

当社の「人と地球と環境に優しい製品づくり」の歴史は古く、すでに30年以上前から有機溶剤を使わない「水系※2」の製品を開発してきました。また15年前からは、環境ホルモンの疑いのある物質の使用を全廃するなどの取り組みも行ってきました。繊維加工用薬剤では数年前から、環境への影響が懸念されるフッ素系化合物を一切使わない撥水剤などの製品化に成功し、さらに、大量の水や熱エネルギーを使う繊維加工工程の省エネに貢献するための、低温・時短・節水タイプの各種工程薬剤なども次々と開発してきました。

また、2013年には、繊維加工用薬剤メーカーとしては国内で初めて、繊維製品の環境規格において世界で最も厳格な基準とされている「bluesign(ブルーサイン)※3」のシステムパートナーに認定されるなど、「環境」をキーワードとする様々なノウハウと実績を積み重ねています。

今後、繊維産業に携わる事業者にとって欠かすことのできない“パスポート”である「環境対応力」。当社は「環境対応ノウハウ」を武器に、中国・アセアン・中米などの超大手繊維加工企業の開拓を進めています。また、繊維加工業のその先に位置する大手ファッション／スポーツアパレルブランド企業にも、ISPO※4などの国際的な見本市への出展などを通じてアプローチするなど、多様なマーケティング活動を展開しています。これらの活動により世界の繊維加工用薬剤市場でのさらなる成長を目指してまいります。



DEMI KOREA CO., LTD.

営業部長
潘 慶一 (パン・ギョンイル)

社長
青木 則浩

社員半数がインストラクター

—好調の理由を教えてください。

当社商品の品質のよさが、韓国市場で支持されたことが最大の要因と考えています。また、全社員20名のうち約半数が、美容室に商品の特長や使い方を伝え、納品後も適宜アドバイスできる「インストラクター」※2であることも大きな理由でしょう。競合他社は販売代理店への営業活動に注力するのに対し、当社は商品のユーザーである美容室での営業活動をメインとしている点を高く評価いただいており、商品の品質のよさも相まって、取引美容室の増加につながっています。

—販売方法は？

日本のデミと同じく、自分たちが商品を使っていたきたいと思う美容室にアプローチする「ノミネートサロン戦略」※3をとっています。韓国で高い人気を得る美容室とお付き合いができることで、売上増も期待でき、しかも最新のトレンドを的確にとらえられます。

当社商品の多数は、日本のデミ商品の一



現地スタッフの奮闘で成長中

用語解説

※1 デミ コスメティクス

日華化学の化粧品部門が持つ美容室向け頭髪化粧品の総合ブランド。1981年、それまでに培った繊維を洗ったり染めたりする繊維加工用薬剤の技術を応用した頭髪用化粧品の開発・製造をスタート。ノミネートサロン戦略（下記参照）など独自の販売方法などにより、現在では日本国内の美容室市場において確固たるポジションを得ています。

※2 インストラクター

デミ コスメティクスの各商品の特長や使用法を、美容室スタッフに伝えたりフォローしたりすることをメイン業務とする職種。デミでは、知識・技術の両面からインストラクターをしっかり教育しています。

※3 ノミネートサロン戦略

デミ コスメティクスが手がける販売戦略で、ユーザーである美容室（サロン）を、代理店ではなくデミが能動的に選定（ノミネート）し、新規納品や既存顧客の取引額増につなげています。

※4 店頭販売商品

シャンプー、トリートメント、スタイリング剤などの美容室専売品のこと。髪のプロである美容師は、お客様の髪質やスタイルケアに合わせて、美容技術に連動した商品を使用しています。同じケアがご家庭でもできるよう、使用した商品をお客様に販売しています。

高品質とフォロー体制を武器に韓国トップ5に。下地づくりを完了し、さらなる拡大を目指す。

2012年に、日華化学子会社のニッカコリアから化粧品事業を分離させて設立した「デミコリア」は、韓国市場でヘアカラー剤やシャンプー・トリートメントなどのデミ コスメティクス※1商品を販売しています。社員中9割を占める現地スタッフの奮闘により年々売上高を順調に伸ばし、2015年も前年比約20%の売上高増を記録。現在では、韓国の美容室専売品市場で売上高5位、日系企業では2位の地位を占めています。その好調の理由をご紹介します。

部を輸入販売しているため、韓国では割高になりますが、高品質であることはもちろん、当社が提供する情報、美容室スタッフの教育サポート、トレンドをとらえた商品提案などの付加価値を評価いただき、売上増につながっています。さらに、パーマ剤など一部の商品は市場性と価格面を考慮し、デミコリアのオリジナル商品として現地OEM生産を行うほか、為替の影響を極力受けないよう、日本デミから内容物のみを輸入し、容器は韓国で調達し韓国で充填するなど、幅広い商品ラインナップと最適な価格設定の両立に努めています。

ヘアカラー比率が高い現状を打破へ

—現在の商品展開と今後の販売戦略は？

当社の設立以前からニッカコリアでデミ商品を販売してきましたが、当時からヘアカラー剤に強く、現在でも売上の約7割を占めています。近年、韓国がヘアカラーブームであることもその後押しとなっています。これは約15年前の日本と同じような状況で、今後、ヘアカラーでダメージを受けた髪を「ケア」するニーズが必ず増します。この流れを的確にとらえ、今後はヘアケア剤の売上を増やしていきたいと考えています。

ヘアケア剤やスタイリング剤といった店頭販売商品※4は、美容室にとって施術がいらず売り切りでき、売上増が期待できる効率よい商品と言えます。かねてから美容室には「共に成長していけるパートナー」として支持をいただいており、さらに美容室の発展をお手伝い



8月に移転した新スタジオ（ソウル）

できるような営業活動を続けてまいります。

—中長期的な戦略を教えてください。

今年1月、新たに「総合企画室」を発足させました。本社から出向してきた総合企画室スタッフが経営計画を立案し、より最適な販路を探り、市場にマッチした商品を販売してまいります。また、現地スタッフを増員するとともに、社員教育にも尽力し、美容室にとって相談しやすく、なおかつプロフェッショナルな知識を持った人材を育成します。それによってデミコリアスタッフがより働きがいを感じてくれ、長く勤めてくれると期待しています。

大きな目標として掲げる「売上高100億ウォン突破」達成に向け、まず本年8月、スペースが今までの2倍強となりスタジオも併設した事務所に移転し、さらなる発展へのベースを整えました。今後にご期待ください。

デミコリア カンパニーリミテッド

所在地 大韓民国ソウル特別市、
釜山広域市（共に事務所・スタジオ）
従業員数 20名（2016年8月現在）
設立 2012年8月
日華化学出資比率 100%
売上高 約80億ウォン（2015年12月期）
※日本円で約7億2千万円、6月末日為替レート（1ウォン：0.09円）で換算

現地の声

デミコリアで働く社員をご紹介します。



営業部 課長 梁 恩縁 (ヤン・ウンロク)：右

デミコリア設立時に入社しました。当時は5人しかいなかった社員が現在は20人。皆愛社精神が強く向上心が豊かで、幹部の指導の賜物と感じています。売上高はもちろん、質の面でも韓国ナンバーワンを目指します。

経営支援部 次長 南 和成 (ナム・ファソン)：中

もともとニッカコリア（現在、化学品事業子会社）に所属していましたが、デミコリア発足時、会社が掲げるビジョン「名実共に韓国No.1になる。」に魅力を感じて転籍しました。今の仕事が好きで、誇りを持っています。会社の仲間とともに未来を思い描き、ともに成長していきたいです。

経営支援部 課長代理 鞠 忠孝 (グク・チュンヒョ)：左

デミコリアでは日々やりがいを感じています。今、さらなる発展に備えるためのシステムづくりに挑んでおり、社員全員がより成長していける環境にしていきたいです。

1リットルの千兆分の1——超微小な合成技術の実用化に、国立研究機関とともに取り組んでいます。

このコーナーでは、長期的な視野で当社が取り組んでいる技術テーマをご紹介します。今回ご紹介するのは、2020年以降の実用化を見据え、国の研究機関とともに技術開発に挑んでいる「フェムトリアクター」です。フェムトリアクターには様々な手法がありますが、当社が開発した「界面反応型フェムトリアクター」は、従来比100倍以上の生産効率を実現する工法として、化学合成の世界に大きなイノベーションをもたらすことが期待されています。

“フェムトリアクター”とは？

“フェムト”は単位を示す言葉で、千兆分の1を意味します。この研究で取り扱っているのは「フェムトリットル」、つまり千兆分の1リットルという超微量な「液滴」※1の世界です。

千兆分の1リットルとは、例えば琵琶湖の水全体（275億トン）のうちのお猪口1杯分相当という、そんな、とても小さな液滴を作り出し、それを「反応装置＝リアクター」に見立て、液滴の中で化学反応を起して化合物を合成するのが「フェムトリアクター」と呼ばれる技術です。試験管やビーカーの中で液体を混合・反応させる方法と違って、①生成物の大きさを精密に制御できる、②副生成物が生じにくい、などのメリットがあり、他にも③反応時間を短縮できるため、エネルギーや環境面でも革新的な技術として注目されています。金・銀・銅などの金属を米粒の100万分の1程度の微細な粒子にして電子部品や触媒などの材料に用いる「ナノ粒子」の効率的な生産や、新しい化合物や医薬品開発などへの応用が、期待されています。

産総研、JST、NEDO※2との研究開発事業

当社はこれまで、3つの国立研究開発法人と関わりながら、フェムトリアクターの技術開発に取り組んできました。その発端は、2012年に産総研の呼びかけにより応募したJSTの研究プログラム「A-STEP」※3に採用されたことから始まりました。

そこでフェムトリアクターの主たる工法のひとつ「液中エレクトロスプレー法」※4を用いてナノ粒子の生産に成功した当社は、2014年にNEDOの「エネルギー・環境新技術先導プログラム」に採択され、産総研、半導体製造装置メーカーとの共同開発体制でさらなる技術開発を目指していくことになりました。この先導プログラムは、学識経験者による厳正な審査を経て採択が決せられるもので、「革新的な技術の原石を発掘し、将来の国家プロジェクト化への道筋をつける」ための産学連

携の取り組みです。

翌2015年に始動したこのプログラムの中で、日華化学と共同研究チームが開発に成功したのが、液中エレクトロスプレー法をさらに進化させた「界面反応型フェムトリアクター」という画期的な工法でした。これは反応後に液滴をすべて回収できるため、生産の効率化が図れ量産化に適しているといった特長があります。電導性加工インクや触媒などに使われる金属ナノ粒子の生産などへの応用が可能です。

従来比100倍以上の生産効率を可能に

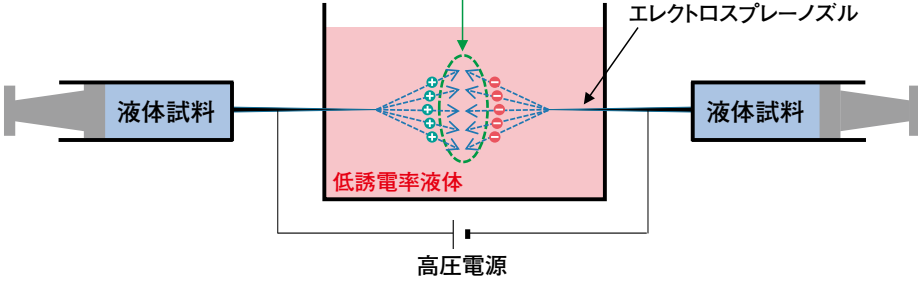
界面反応型フェムトリアクターは、当社のコア技術の一つである「界面技術」※5を用いたもので、従来の液中エレクトロスプレーに比べ

飛躍的に生産性を向上させた反応システムです。例えば金属ナノ粒子の生産に同工法を用いた場合、従来比千倍以上の高濃度の製品を、簡単かつコンパクトな装置でスピーディーに生産できることから、従来比100倍以上の生産効率を実現可能であり、フェムトリアクターの未来を拓く工法として期待されています。

現在当社では、産総研やNEDO、半導体製造装置メーカーなどと協力しながら、この工法のさらなるブラッシュアップに取り組んでいます。2017年3月以降は早期実用化のためにこの技術の国家プロジェクトの採択を受けることを目指す新たなステージに移行します。これからも、超微小な化学合成技術が秘める大きな可能性に挑んでまいります。

■液中エレクトロスプレーによるフェムトリアクターの概念図

正—負液滴間衝突領域



用語解説

※1 液滴

液体のつぶ、したたりのこと。「水滴」とは水のつぶのこと。

※2 産総研、JST、NEDO

産総研：国立研究開発法人 産業技術総合研究所。我が国最大級の公的研究機関として産業や社会に役立つ技術の創出とその実用化に取り組んでいます。経済産業省管轄。
JST：国立研究開発法人 科学技術振興機構。「科学技術イノベーションの創出」をテーマとする基礎研究などに取り組む中核的機関。文部科学省管轄。
NEDO：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構。産官学連携でエネルギー・地球環境問題の解決と産業技術の競争力向上を目指す日本最大の技術開発推進機関。経済産業省管轄。

※3 A-STEP

文部科学省が実施する研究成果最適展開支援プログラム。主に大学や公的研究機関が開発した優れた研究成果を実用化できるよう、企業と協力して産学連携でイノベーションを効率的・効果的に創出することを目指す事業です。

※4 液中エレクトロスプレー法

産総研が中心となって開発した技術。荷電したノズルから液を出すと、電荷の働きで液が球形（液滴）になる現象を応用したもの。＋に荷電した2つのノズルから試料A、Bの液滴を溶液中に放出すると互いに引き合い衝突・融合し、化学合成が行われます。

※5 界面技術

界面とは互いに性質の違う2つの物質が接する境界面のこと。当社はこの界面を制御する技術を長年培い、繊維加工用薬剤をはじめとするさまざまな製品を生み出してきました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)			
科 目	当第2四半期 (2016年6月30日現在)	前連結会計年度 (2015年12月31日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産	23,323	26,933	△3,610
現金及び預金	4,800	7,652	
受取手形及び売掛金	9,115	10,700	
商品及び製品	4,423	3,276	
仕掛品	602	875	
原材料及び貯蔵品	2,930	2,812	
その他	1,548	1,697	
貸倒引当金	△97	△81	
固定資産	21,645	22,133	△488
有形固定資産	17,990	18,189	△198
建物及び構築物(純額)	7,170	7,460	
機械装置及び運搬具(純額)	2,072	2,374	
土 地	6,015	6,262	
その他(純額)	2,731	2,091	
無形固定資産	835	972	△137
投資その他の資産	2,819	2,971	△152
資産合計	44,969	49,067	△4,098

連結損益計算書

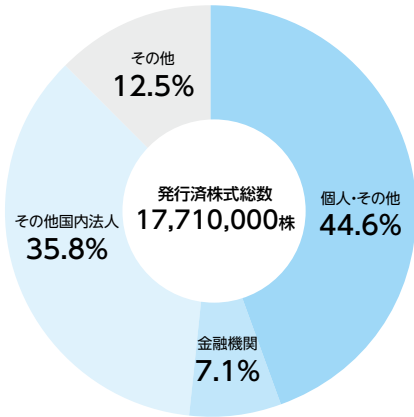
(単位:百万円)			
科 目	当第2四半期 (2016年1月1日～ 2016年6月30日)	前第2四半期 (2015年1月1日～ 2015年6月30日)	増減
売上高	20,966	21,999	△1,033
売上原価	13,538	14,026	△487
売上総利益	7,428	7,973	△545
販管費及び一般管理費	6,545	6,483	61
営業利益	882	1,489	△606
営業外収益合計	215	269	△54
営業外費用合計	267	127	140
経常利益	831	1,632	△801
特別利益合計	1	131	△130
特別損失合計	31	18	12
税金等調整前四半期純利益	801	1,745	△944
法人税等	291	612	△320
少数株主損益調整前四半期純利益	510	1,133	△623
非支配株主に帰属する四半期純利益	107	140	△32
親会社株主に帰属する四半期純利益	402	993	△591

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

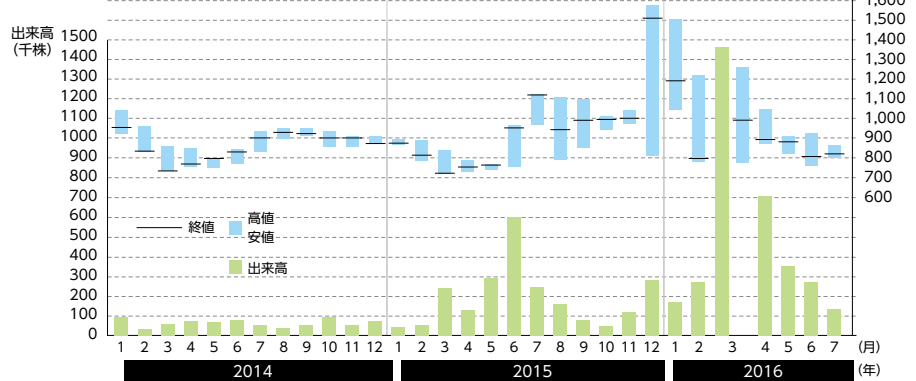
(単位:百万円)			
区 分	当第2四半期 (2016年1月1日～ 2016年6月30日)	前第2四半期 (2015年1月1日～ 2015年6月30日)	増減
営業活動によるキャッシュフロー	△1,322	1,983	△3,305
投資活動によるキャッシュフロー	△1,496	△1,175	△320
財務活動によるキャッシュフロー	657	503	154
現金及び現金同等物の期末残高	4,729	7,170	△2,441

株式の状況 (2016年6月30日現在)

所有者別分布状況



株価の推移



※2015年12月25日以降は、名証2部と東証2部を合わせた情報を掲載しています。
なお、終値は東証2部の終値を掲載しています。

連結対象会社

山田製薬株式会社	日華化学研究(上海)有限公司	ニッカ U.S.A., INC.	STC ニッカ CO., LTD.
コスメラボ株式会社	DEMI (BEIJING) INTERNATIONAL	ニッカ KOREA CO., LTD.	広州日華化学有限公司
イーラル株式会社	TRADING CO.,LTD.	PT.インドネシアニッカケミカルズ	ニッカ VIETNAM CO., LTD.
大智化学産業株式会社	香港日華化学有限公司	浙江日華化学有限公司	
江守エンジニアリング株式会社	DEMI KOREA CO., LTD.	台湾日華化学工業股份有限公司	

持分法適用会社

ソルベイ日華株式会社

鯖江工場が平成28年全国危険物安全協会「優良危険物関係事業所・消防庁長官賞」を受賞

当社鯖江工場(福井県鯖江市)は、これまで一度も火災が発生していないことなどが認められ、平成28年度「優良危険物関係事業所」の消防庁長官賞を受賞しました。

当表彰は、全国危険物安全協会が毎年個人や団体を表彰しているもので、危険物関係法令の遵守はもとより、危険物保安に努め、安全の確保に顕著な功績のあった危険物関係事業所を表彰するものです。工場のある鯖江・丹生消防組合管内では初めての消防庁長官表彰になり、鯖江市・牧野市長からも報告の依頼を受けて面談、受賞の喜びを共にしました。

当工場は1986年(昭和61年)に操業を開始し、敷地内に屋外タンク貯蔵所や製造所等37施設を有していますが、一度も火災を起こしておりません。また、危険物取扱者全員が保安講習を受講したり、設備点検や安全確認励行等の内部マニュアルを作成したりするなど、保安向上への積極的な姿勢が高く評価されました。

今後も日華化学グループ一同、安全第一を掲げ、一層の保安管理に努めてまいります。

近隣区域とのコミュニケーション「鯖江工場見学会」開催

7月2日(土)、当社 鯖江工場にて、近隣町内会の方々25名を招いての見学会を開催しました。

当社について理解を深めていただくため、工場見学、研究実験や自衛消防隊による小型ポンプ操作の実演披露を行い、見学された皆様からは「工場内が整理整頓されていてとても良い環境だと思いました」「防災活動に力を入れていて、地域住民から見て安心しました。」等のコメントをいただきました。

同見学会は、地域住民の皆様とのコミュニケーションの一貫として、2年に一度開催しております。

福井県版ミニ・ノーベル賞「第11回福井県科学学術大賞 特別賞」を受賞

今年2月、当社の化粧品研究部基礎研究グループが「福井県科学学術大賞※1」特別賞を受賞し、福井県県民ホール(福井市)にて行われた表彰式において、当社研究員が西川福井県知事から表彰状を授与されました。

同グループは育毛および抗白髪効果を有する特定の植物エキスを発見し、組み合わせ配合した機能性頭髪化粧品の開発に成功しました。また、これらの植物エキスを配合した機能性頭髪化粧品の開発・製品化※2が、これまでの美容業界の常識を覆す画期的な成果として市場に受け止められたことが高く評価されての受賞となりました。

※1 福井県科学学術大賞:福井県内において科学技術の開発・学術研究に携わり、県の発展に大きく貢献したと認められる個人またはグループを県が顕彰する表彰制度。福井県版ミニ・ノーベル賞と位置付けられており、「物理」「化学」「生物」「医学・生理学」「経済」の5つの分野での業績が対象。

※2 当該製品はデミ コスメティクスのスカルプケア製品「ビオーブ フォルスナリング」です。

世界でニーズの高まる環境対応型製品(繊維加工薬剤)をアピール

近年、欧米を中心とした世界的大手のファッション/アパレルメーカー各社から、より環境に優しい製品への要望が大きくなってきています(P5-6「事業部の『いま』」参照)。このような業界の動向を踏まえ、当社は、世界的な展示会である「ISPOミュンヘン2016」(1月、ドイツ・ミュンヘンにて開催)、「China Interdye2016」(4月、中国・上海にて開催)に出展し、長年開発を継続してきた環境対応型フッ素フリー系耐久撥水剤「NEOSEED System」や、繊維加工工程での節水や工程合理化を提案する製品を紹介しました。両展示会とも、ブースに來られた繊維業界関係者から高い注目を集め、当社にとって大変意義のある出展となりました。

世界的にニーズの高まる環境配慮型製品を、今後も継続してアピールしてまいります。



鯖江市長に受賞の喜びを語る三井工場長(左)と、ご同席いただいた福井県危険物安全協会連合会事務局長(右)
※福井新聞社提供



自衛消防隊による小型ポンプ操作実演



授賞式で西川福井県知事から表彰状を授与される当社社員



当社ブースでの商談の様子 (ISPOミュンヘン)